

# 湖山G、映画上映会 信友監督が講演

湖山医療福祉グループ（東京都中央区）は2月17日、映画「ほけますから、よろしくお願ひします。」の上映会と信友直子監督の講演会を千代田区いきいきプラザ一番町で開催した。

同映画は2018年の父・良則さんの2人の公開。ドキュメンタリー映像作家の信友監督が、アルツハイマー型認知症になった母子さんと、母を支える父・良則さんの2人の様子を取りつづらした。

講演会では、信友監督が動画を撮影する中での気づきを紹介。文



▲信友直子監督が講演

子さんが認知症になってから2年ほどは、良則さんが「自分が面倒

をみる」と、家庭内で介護をしていた。しかし、一日中自宅で座っているだけの生活になり、「2年間笑顔がなかった」

「認知症の人、地域に頼って」

り文子さんはふさぎ込んでいき、良則さんと信友監督の喧嘩も絶えなかった。

その後、介護保険サービスを活用してヘルパーが訪れるようになり、「2年間笑顔がなかった家」に、新しい風が入った」と信友監督は説明する。「世間では家族が介護すること

とを美談と捉えすぎている。家族が皆笑顔でいるためにも、うまく介護サービスを使うのは大切なことだ」

映画のタイトルは、文子さんの発言がもとになっている。その裏には、地域社会でそう言い合えるようになればという信友監督の願いもある。「周囲に迷惑をかけないように」と考えず、地域の人や介護サービスに頼ること、家族も本人も幸せでいられる」

上映会を主催した湖山医療福祉グループの湖山泰成代表も「認知症の人はもっと世間に甘えていい」と述べた。



て活動を開始、長い歴史を経て「医療の家」が誕生。96年1月に資産家のドネーションにより建築され、現在、ヨーロッパで最大規模のホスピスとなっている。フランスの緩和ケアの基

ホスピスティックなケアが提供されている。

利用者は年間約1200人の患者と家族で、平均年齢は75・5歳。がんが8割で臓器不全、神経疾患（ALSやパーキンソン病など）を受け入れる。平均滞在日数は16・34日（2022年）。死亡退院が85%、15%は自宅が介護施設に転院する。

スタッフは200人で医師20人、看護師40人、介護士45人などケア職が約7割と手厚い配置。入所のほか、マセラピー、アニマルセラピー、音楽療法などが提供されている。また、ホスピスにはボランティアを置くことが義務化されているので、経験とスキルのあるボランティアが1000人登録、ケアに重要な役割を果たしている。

《ネットワークと教育研修》

エマニユエル施設長が語ったのはホスピスで大切にしている3つの理念。①その人の人生の日々いのかを支える、②その人自身で定義するQOLを保つ、

## 緩和ケア発展をリー

入れもしている。

またフランスにおける緩和ケアの発展に向け積極的に活動。フランス緩和ケア支援協会（SFAFAP、90）の創設メンバーとしてリーダーシップをとる。

《フランス・レオネット法とホスピスの戦略》

フランスのホスピス数はまだ少ない。緩和ケアユニットが171カ所、独立型ホスピスは3カ所、モバイルチームが420で、全国を網羅しているわけではない。政府は今後、緩和ケア

うとらえていますか？」筆者の問いに施設長と医師は揃って「臨床からみてもいい法律だと思つて答えた。『どの国でも文化でも通じる法律だと思つて。法に推進されて緩和ケアが充実していく』と。十分な疼痛管理や緩和ケアが提供されていないから「安楽死」や自殺ほう助に向くが、それは緩和ケアの失敗ではないかと。緩和ケアモバイルチームの成果にも言及した。

わが国では医療や介護現場でまだまだ看取りの課題

**山崎 摩耶 略歴** [元衆議院議員・ヘルスケアコンサルタント]

訪問看護のレジェンドで制度創設に尽力。介護保険制度には創設時から、社会保険審議会・介護保険部会、介護給付費分科会、身体拘束ゼロ作戦会議など多岐にかかわる。元日本看護協会常任理事、元旭川大学特任教授。衆議院議員を2期務め、主に厚生労働委員会で専門職議員として活躍。海外視察をまとめた『世界はチャレンジにあふれている—高齢者ケアをめぐるヨーロッパ & 中国紀行』（日本医療企画・2020）など著書、論文多数。